

# 心理面接

---

九州大学病院心療内科

2018 春季

# 面接の構造

面接を成立させるためには、**治療構造の設定**が必要



時間, 場所, 料金, 頻度など  
外的条件

## ・時間

いつ?…何曜日の何時から何時まで(50分/回)

## ・場所


どこで?…面接室

## ・料金

いくら?…保険診療? 面接料別?

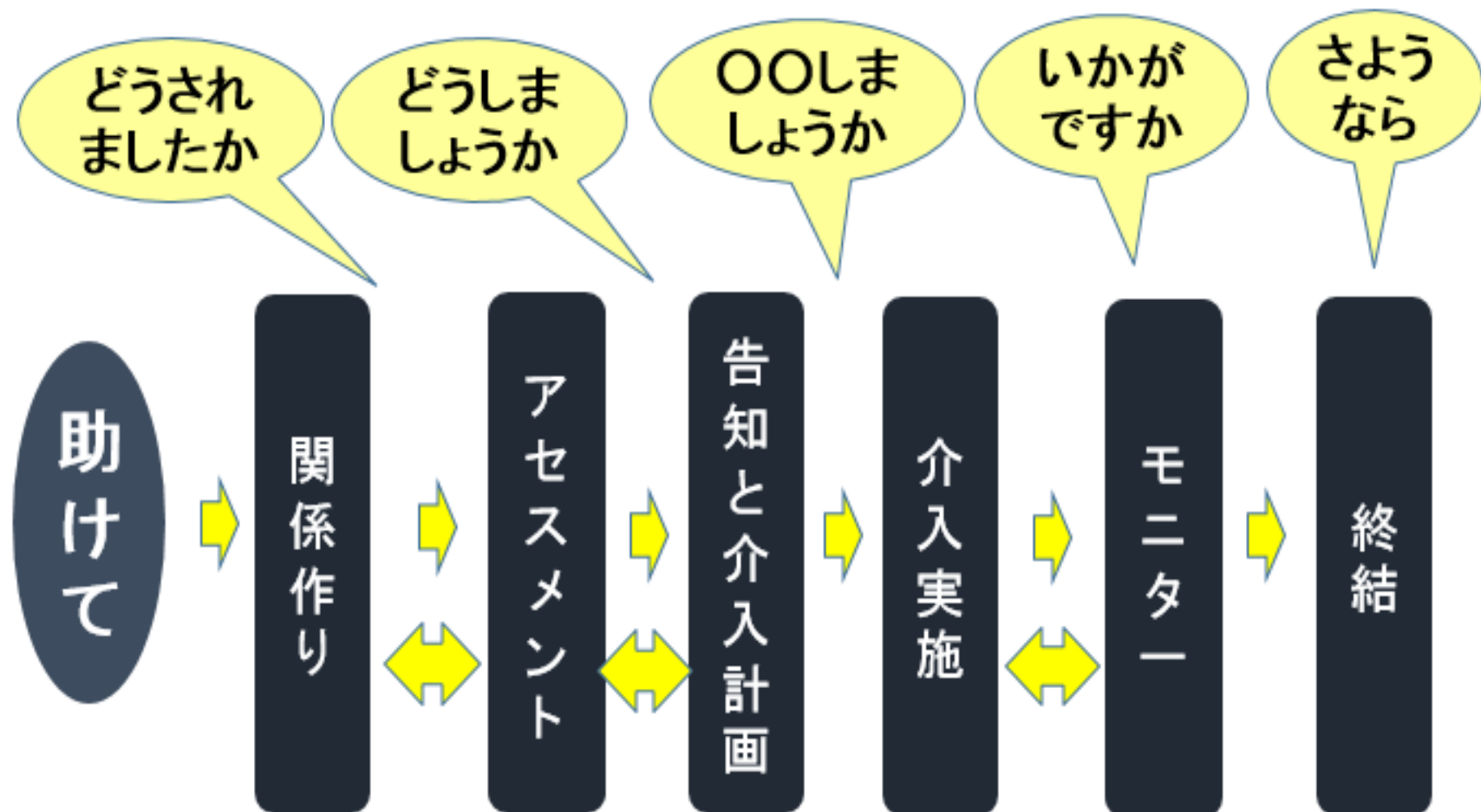
## ・頻度

2週に1回/1ヶ月に1回 など

- 
- ・決まった時間に必ず自分を待ってくれる治療者がいること。
  - ・そこでは批判されたり、搾取されたり裏切られたりする恐れなしに心  
の内を打ち明けることができること。

⇒このような体験を一貫して提供することが患者に基本的な安全感を与えるものとなる。→ このことも患者の“右往左往する心理的不安定さを改善する一助となる”

参考図書:「精神療法の実際」



## 基本的流れ

助けて

- ・直接的なもの
- ・間接的なもの
- ・自分の「助けて」ではなく、  
周りの「助けて」によって本人の意思に反したもの



どう対応するか



その後の治療関係の在り方を  
決定する重要なカギとなる。

関係作り

## 患者との治療関係の構築

治療関係の構築が必要。

無形の何かを提供していく必要がある。

⇒ 安全な空間、時間、理解されたという満足感、安心感、正確で現実的な情報、自分自身についての洞察や気づき、生きる自信、動機づけなど様々。

ひ弱な関係舞台では、その上での活動は制限されるため、堅固な関係舞台を構築。

⇒ 治療関係の在り方は実施する精神療法の質を左右する。

⇒ 挨拶から始まる一連の関係作りは精神療法の扉を開くカギとなる。

- ① どのような心の症状を持っているのか。
- ② どのような関係スタイルや関係トラブルをもっているのか。
- ③ 介入の手段として心理療法が相応しいかどうか。
- ④ その介入方法が適切な患者なのかどうか。

※ DSMやICDなども参考

※ 患者が来院した理由や何をどう助けてほしいのか。

⇒患者の全体像を把握する

⇒病態仮説図の作成も有効。

※ 患者によっては、「助けて」とはいったものの、明確に説明できない

攻撃的な対応しかできない、依存的などの特徴をも持つ患者もいる。



# 面接法

## 面接法の種類

- ・ **査定(アセスメント)面接**・・・患者を理解するために、必要な情報を収集  
→ 必ずしも一度きりなものではなく、継続的に行われる場合もある。

→ インテーク面接

- ・ **治療面接**・・・患者の治療・指導など

→ 心理療法・カウンセリング  
(日本では明確な区分はない。)

精神分析、行動療法、認知行動療法、来談者中心療法  
森田療法、内観療法、プレイセラピー、交流分析  
芸術療法・イメージ療法、自律訓練、フォーカシング  
などなど300種類以上あるといわれている。



# 査定面接(アセスメント面接)・・・患者を見立てる

## ・ インテーク面接の目的

◆患者のニーズや問題点の把握

◆心理社会的背景に関する情報収集

## ・ インテーク面接で聴取する内容

### 1. 症状や障害

①症状の初発と経過

②症状や障害に対する患者、周囲の認知や対処

### 2. 家族歴や生活歴

①過去および現在の家族に関する情報

②現在の適応状態

### 3. 面接場面で観察される身体・精神症状



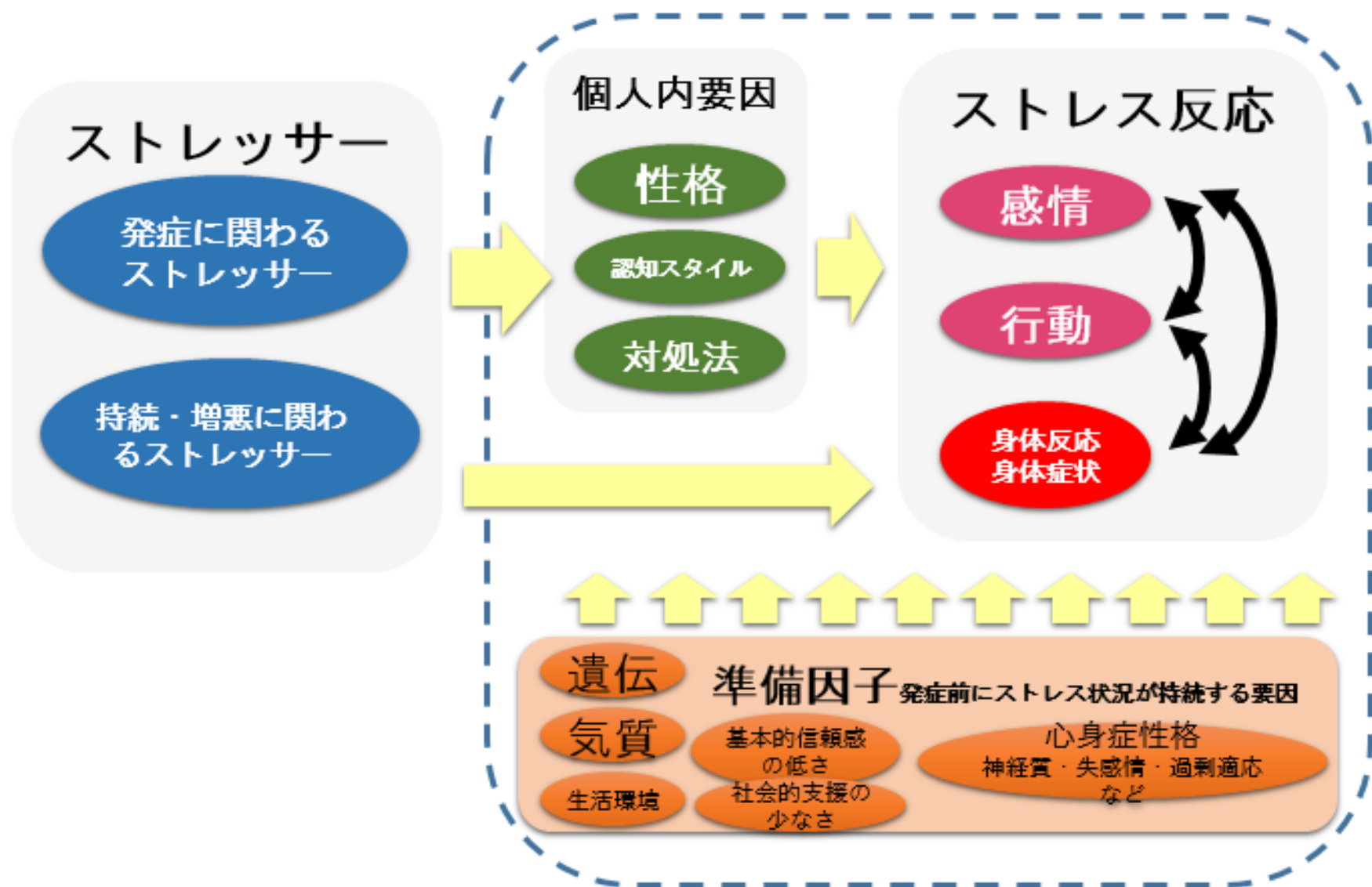
病態把握と診断  
治療方針の決定

いつから？  
どんな時に？  
楽な時はあるか？  
症状のおかげで困  
ること？

ライフサイクルの各  
時期における家族  
関係…  
・乳幼児期  
・学童期  
・思春期 など

参考図：

# 病態仮説図



告知と介入計画

介入実施

モニタ

終結

介入方法は様々。

## ロジャースのカウンセリングにおける必要十分の三条件

### ❖ 無条件の肯定的配慮・関心(受容)

患者(クライアント)をあるがままにとらえること。

また、治療者自身(限界や嫌な面)を受け入れること。=自己受容

☞ 治療者は己の限界(=欠点)を見極めて、しかもその効用について自信を失わずにいななければならない。

### ❖ 共感的理解(共感)

他者の感情をその人の身になって感じ取り、できるだけ正確に理解すること。「感情移入」も同義語。同情とは異なる。共感とは治療者が自分と患者との感情体験を区別していることが前提。

共感的理解によって、患者(クライアント)の主体性の回復につながる。

### ❖ 自己一致(純粋性)

「透明性」ともいえるもの。患者の話を聞きながら驚くときには驚き、悲しむときにはその悲しみをありのままに受け入れる。3条件の中で最も基本的で、自分の中に流れる感情、思考、態度などに正直でいる事。

☞ 治療者は絶えず、自分の価値観を点検し、そして過去の心の傷が自分を脅かさないように、心の傷の手当てをしておかななければならない。

※ 第六の条件として、これらを患者自身が知覚すること

## Mean Scores for Responsive Behavior (High Eye Contact or Forward Trunk Posture) and Unresponsive Behavior(Low Eye Contact or Upright Trunk Posture)

Measure	Responsive	Unresponsive	F(1, 143)
Eye contact			
Empathy	7.4	6.3	102.57*
Alliance	7.5	6.1	108.48*
Credibility	6.3	5.2	57.39*
Trunk posture			
Empathy	6.9	6.7	5.09*
Alliance	6.9	6.6	8.63*
Credibility	5.9	5.6	4.11*

**Note. N=144 Each measure assessed on a 10-point scale.**

**\*p < .05**